

東京学芸大学 外国人児童生徒教育ユニット
「多様性が活かせることばの教育」
2024年度 研修B 幼・小・中・高を結ぶことばの学び
第2回 おしゃべりができる子どもへの学習参加支援
～みんなの考え・わたしの考え～

JSL国語科「古典」単元の授業実践
～比較分析する力を活かす～

福生市立福生第二中学校 日本語学級 一瀬 知未

1 学校紹介

〈東京都 福生市〉

- ・人口：約50,000人
- ・外国人比率：約6%（約3,000人）

〈福生市立 福生第二中学校〉

- ・生徒数：約400人（各学年4クラス）
 - ・日本語学級につながる生徒：12人
- ※福生二中の生徒：9人
市内他校の生徒：3人

《東京都 多摩地域》



2 日本語学級の紹介

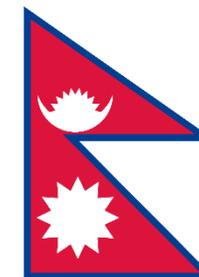
- 来日数か月～日本生まれ日本育ちの生徒といった、多様な背景をもつ生徒が在籍している。
- 来日直後の生徒については、市内にあるNPO法人「YSCグローバルスクール」にて、初期指導を終えてから学校への登校を始める場合がほとんどである。
- **おしゃべりはできるものの、授業への参加は困難**という生徒が非常に多い。
⇒ **教科等と日本語の統合学習（文部科学省「JSLカリキュラム」）に、積極的に取り組む必要がある。**



3 授業実践例

〈生徒の実態（2名）〉

A：フィリピン 滞日1年8ヶ月
B：ネパール 滞日2年0ヶ月



A・B共に日常会話はできる。

だが、**在籍学級の授業を理解するのは難しい。**

⇒**少しでも、在籍学級で授業を受ける際の手助けになるような先行学習を行いたい。**

3 授業実践例

〈授業実践例〉

JSLカリキュラム国語科
『蓬菜の玉の枝―「竹取物語」から』 (第1学年)



〈目標〉

- ▶ 国語科：現代の文章と古典を比べ、その違いや共通点に気づくことができる。
- ▶ 日本語：「～は～だけれど、～は～です」等を利用し、比較して気づいた点を表現することができる。

3 授業実践例

〈授業展開〉

- ① 国語の授業において「古典」を学習することを知る。
- ② 学習のめあてをつかむ。
- ③ 「月」について知っていることを話す。
- ④ 「かぐや姫」の物語について知る。
- ⑤ 古典「竹取物語」の動画を見て、初めての古典に触れる。
- ⑥ 「竹取物語」の冒頭部分と、現代語訳とを読み比べ、違いや共通点を見つける。
- ⑦ お互いに見つけた違いや共通点を発表し合う。
- ⑧ 古典と、現代語訳とを読み比べた感想を書き、お互いに発表し合う。
- ⑨ 「竹取物語」の冒頭部分を音読する。

3 授業実践例

〈授業展開〉

- ① 国語の授業において「古典」を学習することを知らせる。
- ② 学習のめあてをつかむ。
- ③ 「月」について知っていることを話す。
- ④ 「かぐや姫」の物語について知る。
- ⑤ 古典「竹取物語」の動画を見て、初めての古典に触れる。
- ⑥ 「竹取物語」の冒頭部分と、現代語訳とを読み比べ、違いや共通点を見つける。
- ⑦ お互いに見つけた違いや共通点を発表し合う。
- ⑧ 古典と、現代語訳とを読み比べた感想を書き、お互いに発表し合う。
- ⑨ 「竹取物語」の冒頭部分を音読する。

工夫ポイント①

月 (つき)

月の写真

暗くなっている
部分は、
何に見える？

月の暗い部分は
何に見える？

日本

月の写真

スペイン、
ポルトガルなど

デンマーク、
フィンランドなど



餅つき
(もちつき)

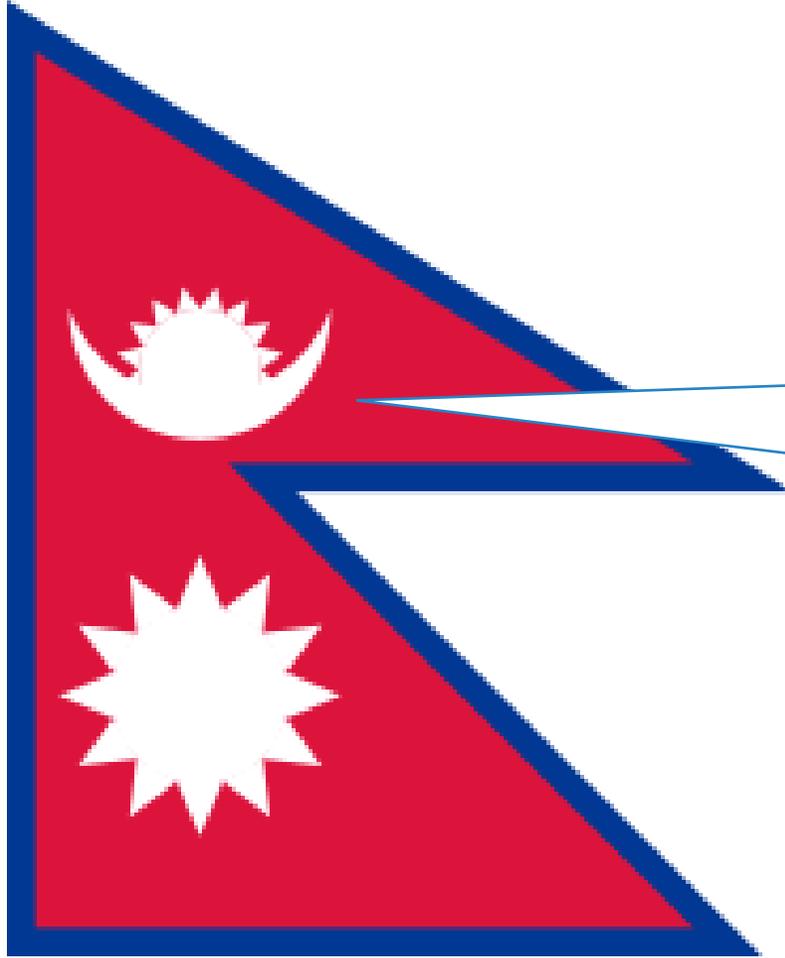
お月見（つきみ）

お月見の写真

十五夜（じゅうごや）

※2023年は、9月29日でした。

ネパールの国旗（こっき）



「月」が、ある！

フィリピンの昔話（むかしばなし）

絵本の写真

「月」がテーマのお話！

日本の昔話（むかしばなし）

絵本の写真

「月」がテーマのお話
『かぐやひめ』

3 授業実践例 I

〈授業展開〉

- ① 国語の授業において「古典」を学習することを知る。
- ② 学習のめあてをつかむ。
- ③ 「月」について知っていることを話す。
- ④ 「かぐや姫」の物語について知る。
- ⑤ **古典「竹取物語」の動画を見て、初めての古典に触れる。**
- ⑥ 「竹取物語」の冒頭部分と、現代語訳とを読み比べ、違いや共通点を見つける。
- ⑦ お互いに見つけた違いや共通点を発表し合う。
- ⑧ 古典と、現代語訳とを読み比べた感想を書き、お互いに発表し合う。
- ⑨ 「竹取物語」の冒頭部分を音読する。

★ポイント★

① 『竹取物語（たけとりものがたり）』が書かれたのは、1000年以上前
⇒ 時代（じだい）

② 昔はコピーする機械（きかい）がないので、

3 授業実践例Ⅰ

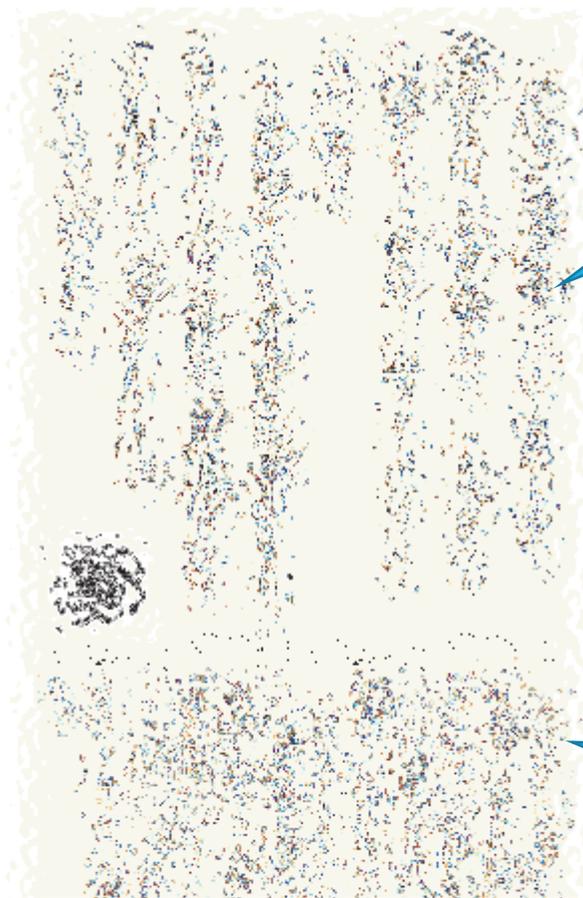
〈授業展開〉

- ① 国語の授業において「古典」を学習することを知る。
- ② 学習のめあてをつかむ。
- ③ 「月」について知っていることを話す。
- ④ 「かぐや姫」の物語について知る。
- ⑤ 古典「竹取物語」の動画を見て、初めての古典に触れる。
- ⑥ **「竹取物語」の冒頭部分と、現代語訳とを読み比べ、違いや共通点を見つける。**
- ⑦ お互いに見つけた違いや共通点を発表し合う。
- ⑧ 古典と、現代語訳とを読み比べた感想を書き、お互いに発表し合う。
- ⑨ 「竹取物語」の冒頭部分を音読する。

工夫ポイント②

3 授業実践例 I

〈教科書（光村図書）より抜粋〉



上段：古典

下段：現代語訳

読み比べ、違いや共通点を見つける。

3 授業実践例 I

〈ワークシート上部〉

国語『蓬萊の玉の枝—「竹取物語」から』

めあて：現代（今）の文章と、古典とを比べて、同じところや違うところを見つけよう。

- ① 「竹取物語」と現代語訳（今の言葉で書かれた文）とを比べて、同じところや、違うところを見つけよう。

《同じところ》

《違うところ》

3 授業実践例 I

〈共通点について〉

- どちらも同じ話をしている。(B)
- 「三寸」、「筒」などの言葉が同じ。(A)
- 文字（ひらがな）も、昔と今と同じ。(A)



《生徒の様子》

〈違いについて〉

- 古文の方が文量が少ないが、話が分かりづらい。(B)
- 現代文の「あった」が、古文では「ありけり」になっている。(A)
- 古文では「ひ」と書いているが、「い」と読んでいる。(A)

3 授業実践例 I

〈授業時のホワイトボード〉

The whiteboard contains handwritten notes in Japanese. At the top left, '同じところ' (Same place) is circled. Below it are three bullet points: 'どちらも同じ話' (Both are the same story), '言葉 (三寸筒)' (Words (Three-inch barrel)), and '文字 (ひらがな)' (Characters (Hiragana)). At the top right, 'ちがうところ' (Different place) is circled. Below it are three bullet points: '古典の方が文が短い' (Classical has shorter text), '〃 話が分らない' (〃 Story is hard to understand), and '「あった」→「ありけり」' ('was there' → 'is there'). Below these are two underlined lines: '「ひ」を「い」と読む' (Read 'hi' as 'i') and '「ひ」を「い」と読む' (Read 'hi' as 'i'). An arrow points from the underlined line to a sticky note labeled '文末表現' (Text ending expression). Below that is another sticky note '文の最後のところ' (The end of the text). At the bottom left is a sticky note '歴史的仮名づかい' (Historical kana usage), and at the bottom right is '昔のひらがなの使い方' (Usage of old hiragana).

同じところ

- どちらも同じ話
- 言葉 (三寸筒)
- 文字 (ひらがな)

ちがうところ

- 古典の方が文が短い
- 〃 話が分らない
- 「あった」→「ありけり」

「ひ」を「い」と読む

「ひ」を「い」と読む

ぶんまつ ひうげん
文末表現

ぶん さいご
文の最後のところ

れきしてき かな
歴史的仮名づかい

むかし つか かな
昔のひらがなの使い方

3 授業実践例 I

〈ワークシート下部〉

② ①で見つけた同じところや^{ちが}違うところについて、^{ぶんしょう}文章で書こう。

- ・同じであることを書くための例: 古典も現代語訳も～は同じです。
- ・違うことを書くための例: 古典は～だけれど、現代語訳は～です。



《同じところ》

《違うところ》

例を載せておくことで
書くことへの抵抗感を
少なくする。

名前 ()

3 授業実践例 I

〈共通点について〉

- 古典も現代語訳も、言葉や文字が同じです。
- 古典も現代語訳も、話が同じです。(B)

〈違いについて〉

- 古典は歴史的仮名遣いを使うけれど、現代語訳は使わないです。(A)
- 古典は話がわかりにくかったが、現代語訳は話がわかりやすいです。(B)

自分の考えを
まとめ、
相手の考えを
知ることも
できた。

3 授業実践例Ⅰ

〈授業づくりの際に大切にしたいこと〉

- ・ **在籍学級の授業担当者との連携を密にすること。**

- ・ 次の単元でどのような学習をするのか？
- ・ 単元のポイントは何か？
(これだけは分かっておきたい、ということ。)
- ・ どのようなワークシートを使用しているのか？
(時には授業観察をすることも必要。)

4 授業実践例Ⅱ

〈授業実践例〉

JSLカリキュラム社会科

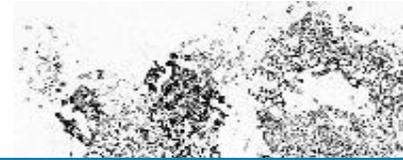
『「日清・日露戦争と近代産業」～風刺画の展覧会名と、それぞれの絵に付ける題名を考える～』（第3学年）

〈目標〉

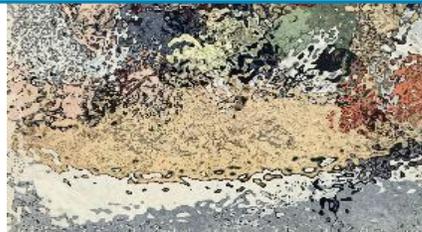
- ▶ 社会科：日清、日露戦争の流れについて理解し、風刺画の題名を考えることができる。
- ▶ 日本語：①社会科の言葉や表現を使って書くことができる。
②「～だからです」を使い、理由を説明することができる。

4 授業実践例Ⅱ

〈風刺画の例〉



一つひとつの風刺画に題名をつけ、さらにそれらの風刺画を集めた「展覧会」を開くので、その会の題名もつけるという学習課題



4 授業実践例Ⅱ

〈導入〉

日 清 戦 争

↓ ↓

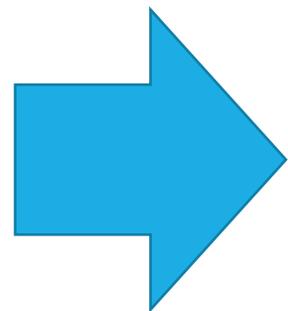
日 本 中 国

The diagram illustrates the relationship between the characters '日' (sun) and '清' (water) and the words '日本' (Japan) and '中国' (China). The characters '日' and '清' are enclosed in red rounded squares. Blue arrows point downwards from '日' to '日本' and from '清' to '中国'. The words '日本' and '中国' are written in red.

4 授業実践例Ⅱ

〈導入〉

印度

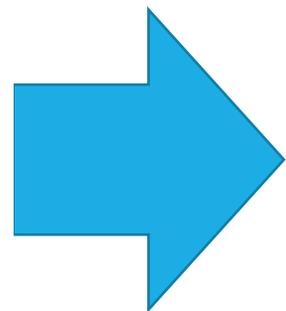


インド

4 授業実践例Ⅱ

〈導入〉

新西蘭

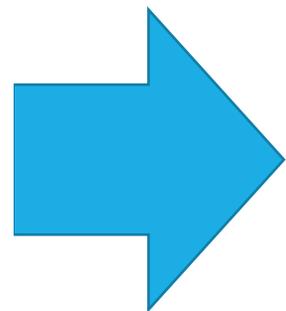


ニュージーランド

4 授業実践例Ⅱ

〈導入〉

尼波羅



ネパール

4 授業実践例Ⅱ

〈ワークシート上部〉

単元「日清・日露戦争と近代産業」～風刺画の展覧会名と、それぞれの絵に付ける題名を考える～

【本時の学習課題】 風刺画に付ける題名を考え、そのように考えた理由を説明しよう。

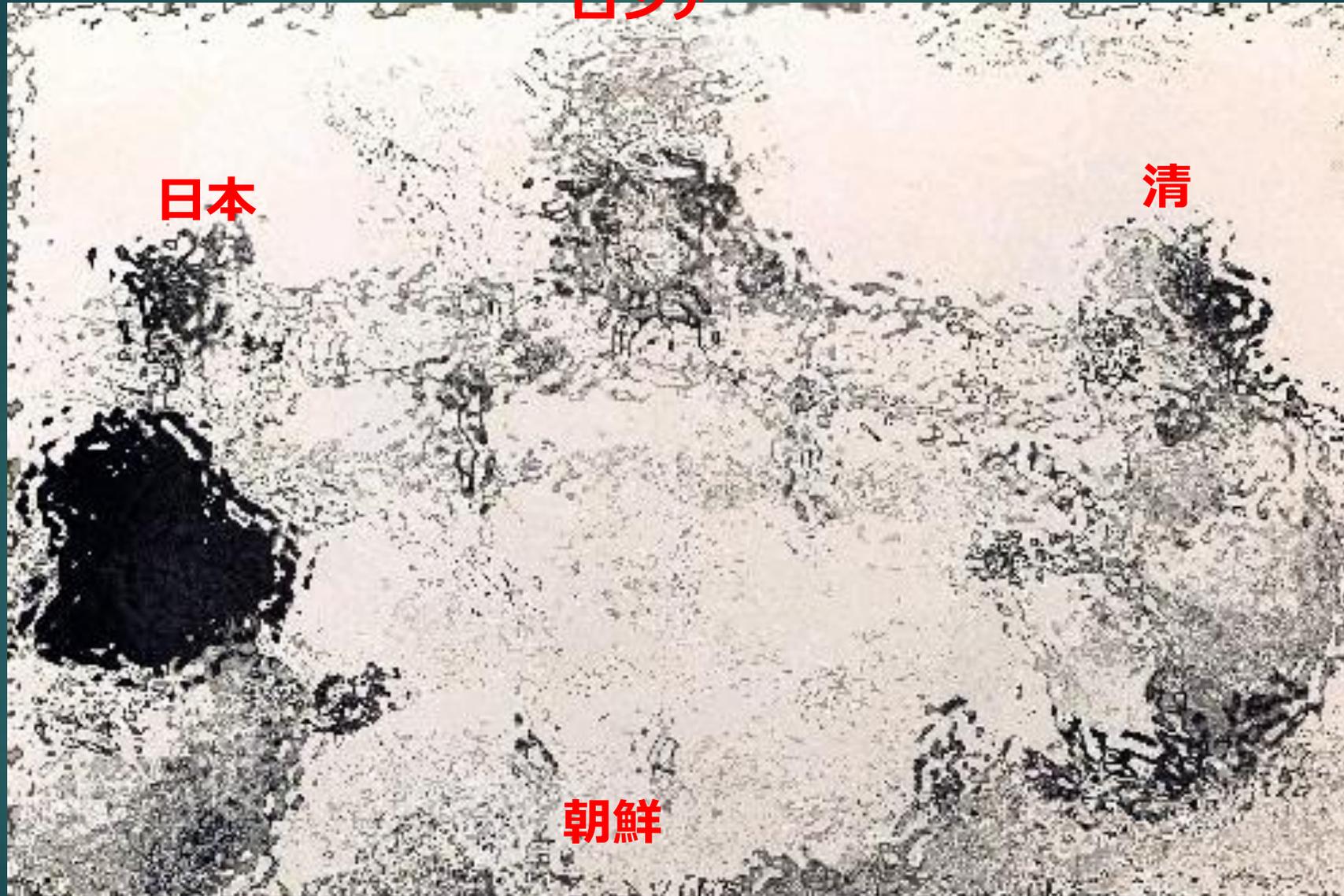
- ① 「日清戦争」の流れを復習しよう（教科書 P.176～177）

「日清戦争」の流れとキーワードを確認

を出すように頼んだ。

- ・ 日本も、清に続いて朝鮮に軍隊を出したので、（_____戦争）が起こった。
- ・ 日本が勝利し、（_____条約）を結び、清から領土や賠償金りょうど ばいしょうきんをもらった。

日清戦争



4 授業実践例Ⅱ

〈ワークシート下部〉

私の色

在籍学級の授業担当者と連携することにより、生徒の中で『授業が分かる』という実感が生まれた。

理由は、みんなも自分が点をはし
と言っていると思うからです。

5 最後に

おしゃべりができるようになった生徒たちが、
少しでも「**できる、分かる**」という実感をも
って在籍学級の授業に参加できるような
日本語指導を実践していきたい。

